

ボランティア連絡会



SUITAすまいる

吹田市ボランティア連絡会ホームページアドレス
https://suitashiboraren26.jimdofree.com/



第130号

編集・発行

吹田市社会福祉協議会ボランティアセンター
吹田市ボランティア連絡会

〒564-0072 吹田市出口町19番2号
市立総合福祉会館内
TEL (06) 6339-1210

ー広めよう深めようボラティア活動ー

すまいる
ボランティアの笑顔は… 大きく 大きく



楽しもう！頑張ろう！
マスクの下は満面の笑み

高齢者へのコロナワクチン3回目接種が進み、新たな感染者数減少により再びボランティア（以下V）が必要とされ、活躍できる時がすぐそこに！！

Vは地域、社会のためばかりではなく

- ① 自分自身の健康のため
- ② 仲間づくりの場
- ③ 喜んで頂ける喜びと充実感
- ④ 社会参加と自己研鑽

などなどV自身に良い影響があることを私たちは実感しています。実際に高齢者の健康に関する統計にも反映されています。

コロナ共存のもとV活動に新しい取り組みも実践され活動が活発化すること、多くの仲間や施設などと再び繋がりがあえることに期待が高まっています。Vが活動するところには笑顔がいっぱい。

この時代の変化を機にVに関心のある方は笑顔の一員に加わってみませんか？

V相談は吹田市社会福祉協議会（以下吹社協）ボランティアセンターに！！

吹田市社協ボランティアセンターからの お知らせ

ボランティア体験 プログラムが始まります！

7月～11月にボランティア活動のきっかけづくりとしてボランティア活動をより身近に感じて体験してもらう取り組みを実施します。一緒に新しい一歩を踏み出してみませんか？

- 活動内容：市内で活動するボランティアグループや、地域でのボランティア活動。
- 対象：市内在住、在学の大学生、専門学生
- 申込方法：電話・FAX・メール・右記2次元コードで7月よりお申込みください。



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になる場合もございますので、事前にお問い合わせください。

ボランティア活動保険 加入受付中

安心してボランティア活動ができるように、令和4年度のボランティア保険（申込み翌日から令和5年3月31日まで適用）の加入を窓口にて受付しています。



お問い合わせ・申込みは ボランティアセンターまで
TEL(06)6339-1210 FAX(06)6170-5800
メール suisyakyo@mua.biglobe.ne.jp



▲野草も主役に

吹社協ボランティアセンターからWAIKIさんのイベントでのフラワーアレンジメント指導の活動をご紹介いただき面談に伺いました。高齢者マンションにお住まいの方、内覧会に来られる方対象の活動で、当初2月を計画されていましたがコロナで中止となり、次回開催に向けて準備中とのことです。

将来的には入居者の交流の一環として定期的に季節の花を愛で、自分で活かすことを楽しんでいただきたことと、私の華道・フラワーアレンジメントの長い経験が役に立つことはとても嬉しいことです。持参した小さな器に道端に咲いていた野草などで即興アレンジしてみました。

実際に活動できる日を楽しみにしています。

吹田ボランティア
山本 永津子

は～い
お手伝い
できます！

私たちの法人では、昨年11月から「わいわいワイキ食堂」を立ち上げました。

準備段階では、市の子育て政策室やラコルタの方々から、懇切丁寧にご指導を頂きどうにかオープンまでこぎつけたものの運営面での不安は残りました。そのため吹社協ボランティアセンターのお力添えで、初日からVさんにご協力いただけたことは何よりでした。



▲Vによる喫茶も…ご来店お待ちしております。

私たちは未経験者の集まりなので、ベテランのVさんの存在はとても心強く感じました。今では吹田のVさん達は私たちにとって最も頼りになる存在になっています。吹社協ボランティアセンター、吹田市ボランティア連絡会の皆様には今後ともご指導ご鞭撻いただき、Vの皆様とともに力を合わせて活動を盛り上げていけると嬉しいです。

特定非営利活動法人
W A I K I
近藤 量行

編集後記

大相撲春場所が3年ぶりに有観客で開催されました。昔から荒れる春場所といわれるように、今場所も大いに荒れました。千秋楽優勝決定戦は新関脇・若隆景 VS 平幕・高安です。若隆景の初優勝！久々の名勝負で応援に熱が入りました。一生懸命取り組むことは尊いです。

ボランティアも熱い思いをもって活動したいと思います。

北嶋 玉枝

コミュニティサロン

2か所で開催しています。

- ☆夢つながり未来館 2階会議室
毎月第1木曜日
午後2時から4時まで
- ☆総合福祉会館 2階ボランティア室
毎月第2・4火曜日
午後1時から3時まで
切手やプルタブの整理を行っています！



災害ボランティアセンター講演会

メシアター小ホール

3/9 水



▲実体験の話は心に響く

吹社協主催で日本国内災害救援のNPOにいがた災害ボランティアネットワーク理事長 李 仁鉄氏の講演が会場、ZOOMのハイブリッド形式で開催されました。

平常時の福祉と災害時の福祉は別のものでなく普段から顔見知りの人ならお困りごとのニーズを拾いやすい、Vは力仕事ばかりではない、ある被災地での一番人気は編み物教室だった、炊き出しでは地元の味付けが喜ばれるなど被災者の気持ちに寄り添うことが大切だと豊富な経験からのお話が聞かれました。

また、Vの強みは集うことだったのにコロナ禍の熊本県球磨村の豪雨災害、熱海土砂災害ではVの受け入れが限定されたという話と共に、熱海土砂災害では技術系とも連携し日本で一番多く屋根に上ったスペシャリストとして大阪北部地震でお世話になったレスキューアシストの中島さんが紹介されました。自信に満ちた黒く焼けた顔を懐かしく拝見しました。

ボランティアセンター交流会

3/13 日



▲エイエイオー！

春本番を思わせる好天に恵まれた日に、総合福祉会館3階保健センター研修室にて、講師、京都光華女子大学教授石井祐理子先生を招いて「コロナ禍で気付くボランティアの魅力」と題して開催されました。流暢な関西弁でユーモアあふれる話に、会場参加、ZOOM参加総勢40名近くのVが熱心に聞き入っていました。

先生の「ボランティアは思いを止めない」というお話に勇気をいただきました。

後半「祐理子の部屋」と題してコロナ共生社会における疑問点や今後の展望等々を、吹田ボランティア代表矢上さん、吹社協ボランティアセンター担当水田さんのお2人が加わり、トーク方式で行われました。

大変意義深いお話で感動いたしました。今後もこのような交流会を多く行っていただきたいと思います。大変ありがとうございました。

大翔岳風会亥子谷支部南千里支部・ボランティア部会 弘瀬 敏男

ボランティア入門講座

3/11 金



コロナ禍、3年ぶりに入門講座がボランティアセンター主催で開催されました。京都光華女子大学教授石井祐理子先生

の講座を聴き、「Vは人と人、あるいは人と社会を繋ぐ仲立ち」という言葉が印象的でした。講座の後にボラ連から5グループの活動を紹介し、受講者のお一人、万代勉さんに感想を伺いました。



以前から興味のあったVについて自身がどの様に進め、どのような活動が出来るのかを知りたかったので

参加してみた。Vの全体的なイメージは垣根が高く、語源からの意志や自発性を持って行動するって重く感じてしまう。皆さんもそう思っていないですか？

講座内容ではセンター化されている事、コーディネーターさんが本人の出来る事を探して下さることも知れ心強い。様々な団体の活動内容なども知ることができ可能性を感じた。

新しい視点として就業者でも出来るV活動がわかる仕組みやアクセスがあれば良い、きつと一歩踏み出したい人も多いと思う。趣味や得意なことを披露する場所という取っ掛けでも良いんだ的なw

登録団体もカテゴライズをしてVをする側される側が希望するものをHP上で簡単に検索出来るシステムがあれば垣根はもっと下がるだろう。

このような機会をいただきありがとうございました。

万代 勉



吹田市ボランティア連絡会 令和4年度総会開催

4/15 金



▲リアルで開催

3年ぶりに対面での開催が実現しました。吹社協会長櫻井和子氏から吹田の福祉においてボラ連の存在は心強い、誰もが安心して暮らせる住みよいまちづくりを一緒に目指したい、とご祝辞を頂きました。続いて議長に「ほつと吹田」の森山さんが選出され議事に入り令和3年度活動報告・決算報告・監査報告、令和4年度活動計画・予算すべて承認され総会は無事終了しました。終了後、管外バス研修の先行講座のテーマについてのアンケートに各人各様の回答を頂きました。今後役員会にてより多くの人がご参加いただけるものに決定したいと思います。

待ちに待った対話の場

思いがせきを切ったように

総会の後、参加された22グループが3つのブロックに分かれ座談会を開催しました。

コロナ禍の活動において、「できていることとできないこと」「コロナ禍の活動でのお悩み事」や「活動で工夫していること」など話し合ってお互いの活動状況を共有し、また「今後の活動でしてみたいこと」などを語っていただきました。

まず、ほとんどのグループで高齢者施設や小学校などを訪問する活動が中止となり、今までの活動で関わりがあった方たちとの距離ができていそうで心配だという意見がありました。その点について、今まで訪問していた高齢者施設の方に絵手紙などを送り文通をされているグループがあり、コロナ前と同じ活動はできなくても関係性を維持していく活動はお互いのためにもとても素敵な取り組みだと感じました。

座談会



と感じました。一方、児童への読み語り

は出来なくても幼児対象には比較的活動が出来たとか、コロナ禍で在宅時間が

とダビングの活動はいつも通りできていたとか、病院への付き添いは休めな活動だったという話もありました。

ラインで実施されていて、結果的に活動の幅が広がったグループもありました。感染対策のため、会場に集まる人数を制限して回数を増やしたり、朗読など声を出す活動や、この機会に会員を募集して技術の継承等に時間を使っているというグループなど、とにかく活動を継続していこうという皆さんの心意気を感じました。

アフターコロナでは高齢であつてもZOOMやオンラインに挑戦したいという前向きな姿勢にVならではの意識の若さに刺激を受けました。

このようにグループ同士で交流できたことは、これらの活動において大きなヒントになり、「それいいね」と言い合いながら、ずっとV活動をしていけたら…と強く感じられた時間でした。